

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

令和5年度

法人名	社会福祉法人 青い海の会	代表者	木村鶴恵	法人・ 事業所 の特徴	基本理念「地域で支え・笑顔・ぬくもり」くじらの心「みんな生き活きくじらで暮らす」くじらに関わるすべての人が、大海原を生き活きと泳ぐくじらのように元気に毎日過ごす。そんな笑顔・ぬくもりのある場所になれるよう取り組んでいる。こども園併設の特徴を生かし、園児たちと日常的な交流ができアットホームな空間が楽しめる。地域住民の方と毎月末の日曜日に「くじらの会」という交流会を開催し、体操・歌・踊り・読み聞かせなどを企画している。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護事業所 南浜の家くじら	管理者	高橋恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	4人	0人	2人	1人	0人	5人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価や反省をふまえ、現時点の自己、事業所のあり方をしっかりみつめる機会とする。 ・運営推進会議で時間をとり、2回に分けて外部評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価で自分自身や事業所の振り返りを行う事で、各自や事業所の課題点が見えてきた。 ・外部評価の説明、事業所の課題等の報告を2回行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の取り組みの説明がわかりやすかった。 ・各取り組みごとに写真がそえられていて、雰囲気伝わり理解しやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の課題点やより良くするための活動に焦点を当てて、具体的な改善策を実行する。 ・職員会議の中で、課題点について取り組んでいるか検証する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人的環境、物質的環境の両方から、居心地の良い雰囲気づくりのため、職員が力を合わせ、常に職員会議等で改善点を話し合う。 ・毎月のキレイ週間は毎回具体的に何に力を入れるか明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉づかい」や「勤務態度の基準」等、接遇マナー研修を行うことで、職員が自分自身を振り返る機会をつくった。 ・毎回キレイ週間の中で、ポイントを絞った事で、積極的に清掃活動に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来所する度、職員の方々が気持ちの良い挨拶をしてくれる。温かい雰囲気が伝わってくる。 ・人的、物質的両面の環境づくりを考え、利用者や家族が安心できるようにしている事に感謝している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観葉植物や季節の花等を利用者様の目にとまる所に飾り、気持ちの良い空間づくりを心がける。 ・人的環境、物質的環境の両面から、心地の良い居場所づくりのため、職員が力を合わせ、常に職員会議等で改善点を話し合う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・キレイ週間が定着し、利用者、職員が地域と深く関わっていける場をイベント以外でも増やしていく。 ・地域の施設や機関との連携を強化し、協力しあえる事、合同で出来る事を運営推進会議の中で助言していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のケア会議にリモートで出席し、情報を得る事ができた。 ・「くじらの会」で作業療法士の方々や地域大学生ボランティア等、様々な機関と連携し、50人以上参加の異世代交流も兼ねた健康教室を開催できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症が落ち着いてきたら、更に地域との交流が図っていかれたらと思う。 ・事業所が地域の施設や機関と関わりを持ち、合同で様々な活動をしていることが伝わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設や機関との連携を強化し、協力し合える事、合同で出来る事を運営推進会議の中で確認し助言していただく。 ・広がってきたつながりの輪を大切に、常に情報をキャッチしながら、当事業所で出来る事を考え続ける
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いや希望によりそい、それを実現するための努力を継続する。 ・小規模多機能型居宅介護の役割や特色を広く多くの方に知っていただく努力をする。(広報、小・中学校への働きかけ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターさんと一緒に2月、地域の小学生を対象に、認知症サポーター養成講座を行うことができた。 ・「買い物が見たい」「海が見たい」など、各自の希望に合わせて、柔軟に活動を行う努力をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で外との交流が持ちにくい時期もありましたが、くじらの会などを通し、広く交流を図ろうとしている事がうかがえた。 ・一人ひとりの要望にこたえ、個別に活動したり、工夫していると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症についてや、小規模多機能型居宅介護の役割や特色を多くの方々に知っていただく。(広報、小・中学校への働きかけ等) ・利用者の思いや希望によりそい、それを実現するための柔軟な対応を心がけ、職員間で共有する。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議での助言等をいかした BCP 作成に取り組む。 ・運営推進会議では今後も全スタッフが順に出席し、事業所での取り組みが見て分かりやすいように写真等準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議に職員が順に出席することができた。また、地域から勤務している職員が多い事から、災害時の協力体制等を伝えた。 ・運営推進委員からの意見等をいかし、BCP を作成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の普段の行事だけではなく、「くじらの会」の内容も、分かりやすく伝えている。会議の中で、地域づくりに関するアイデアをもらったり、地域包括支援センター業務にも協力くださり、助かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の中で、BCP の見直しや助言等をいただく。 ・会議に今後も全職員が順に出席し、事業所の理解を深めていただけるようにする。事業所が地域に向けて出来る事を常に考える。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP 作成と実行において、地域の協力が欠かせない事から、事業所の防災訓練に、外部の方々に参加していただいたり、地域の訓練にくじらの職員が参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議中の防災訓練を計画していたが、計画内容について、机上での細かい話し合いにとどまった。次回は、実際に動いて、防災訓練を合同で行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を活用し、机上訓練ができれば、感染症のリスクを減らし、地域の方々の協力を得られるようになると思う。 ・災害時の連絡体制を確認し合うと良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP の実行において、地域の協力が欠かせない事からも、事業所の防災訓練に、外部の方々に参加していただいたり、地域の訓練にくじらの職員が参加し、お互いの交流を深める。